春(4 月～7 月)に活動

ももちゃんの世界に入ってみた

～らいおん組、『ももちゃん』をきっかけに深まった遊びの事例～

らいおん組の姿-背景-

４月から絵本が待ち時間に読まれるだけになっており、自由遊びの際に手に取る子どもは少ない様子でした。多摩川図書館で借りてきた絵本も最初の数日は喜んでみるが、継続はしない姿がありました。

子どもたちの中で絵本が深まるためにはどうしたらいいのかと思い、一日に 1 冊以上、絵本を読むようにしてみることにしました。

ももちゃんとの出会い

５月の多摩川図書館に行く日に、N.I ちゃんが『ももちゃん』を借りてきました。何日か目に、「これよんで！」と『ももちゃん』を渡され読んでみると、お話のなかに、ナメクジたちが歌うシーンが２箇所ありました。そこで、ナメクジたちが歌うシーンを読む際にリズムをつけて読んでみました。

♪むしゃむしゃ　むしゃむしゃ　夢のよう～
♪ここのお庭は天国だ～　ナメクジのごちそうでできている～
♪ナメナメ　ナメナメ　夢のよう～
♪ナメナメ　ナメナメ　怒ったぞ！
♪ナメナメ　ナメナメ　許さない！

ナメナメをリズムをつけて読むと、すかさず子どもが繰り返してきました。

ナメナメブーム

『ももちゃん』を読んだその日から、ナメナメブームが始まりました。♪ナメナメ　ナメナメ　どろだんご！や♪ナメナメ　ナメナメ　お茶ください！などと日常のなかでもナメナメが聞こえるようになっていきました。

そして、『ももちゃん』も大ヒットし始めて読んだ日から 4 日連続で『ももちゃん』を読んで！とお願いされました。

ナメクジャーをつくりたい！

ナメナメブームがきてしばらくすると、Y ちゃんが「ナメクジャーってつくれないかな？」と聞いてきました。そこで、「ナメクジャーつくりたいの？おもしろそうだね！なにでつくる？」と聞いてみると、しばらく考えたあと、「うーん、折り紙とか？」と返答がありました。私たちの話し合いを聞いていた R ちゃんが、「でもそれじゃさ、ただのナメクジになっちゃわない？」と会話に参加してきました。そこで、私も「たしかに。折り紙だと小さそうだね」と R ちゃんの意見に同意すると、Y ちゃんがまたしばらく考え、「じゃあ、段ボールはどう？」と聞き、R ちゃんが「それいいね！」と話がまとまりました。

ナメクジャー作りしてみた！

前日にナメクジャーをつくることで話がまとまっていたので、その日はナメクジャーをつくれるように、いくつかの段ボールと廃材(空き箱やストロー、割り箸など)を用意しました。保育者が用意していた素材のなかから、「この段ボールとこっちの段ボールをくっつけてみたらどうかな？」「この箱は口になりそう！」と子どもたち同士で話し合い、ナメクジャーの形をつくっていました。一番大きな段ボールを重ねて体にし、細長い段ボールをしっぽとして繋げ、ナメクジャーの体の形を何度も絵本で確認して体の大きな枠組みができあがりました。体の大枠が完成したとき、何度も絵本をみて確認していた Y ちゃんが体がかくかくしてしまうことに気がつきました。「ナメクジャーって丸くない？！」「段ボールがけだとカクカクしちゃうよ！」という Y ちゃんからの発言でまた、子どもたち同士の話し合いが始まりました。「どうしたら丸くなるかな？」「なんか巻く？」「でもなにを巻いたらいいのかな？」と話が行き詰っていたので、「緩衝材とか新聞紙はあると思うけど使う？」と聞いてみました。すると、「ああ！それいいね！」「使う！使う！」と段ボールに緩衝材を巻きつけたり、新聞紙をくしゃくしゃにして巻きつけたりして、丸みをだしていました。さらに、ギザギザの口を再現するために、白い箱を探し、箱を切り、牙を描き、口もつくりました。ナメクジ特有の目は、割り箸と画用紙でつくり、絵本を見比べながら協力して描き上げていました。

段差もなくなるようにここには新聞紙を巻いていったらいいんだよ！

緩衝材もふわって巻いていったらいいんじゃない？

ナメクジャーを数人でつくっていると…！

ナメクジャーづくりを数人で、月曜日の昼に 1 カ月ほどかけて進めていると、“ナメクジャーをつくりたい！”という思いのほかにも、「ナメクジたちもつくりたいね」「ナメクジャーたちが食べるももちゃんのお庭もつくりたいね！」という思いも出てきており、いつしかそれらの思いが「ももちゃんの世界をつくりたい！」という思いになっていってました。ナメクジャーを見たほかの子どもたちからも「なにこれ！」と興味の声が聞こえてきていました。「ナメクジャーつくってるんだよね！」と伝えると、「楽しそう！私もやりたい！」という声がでてきました。

そこで、自由遊びの時間でできることはなんだろう？と子どもたちと相談した結果、「ナメクジなら大きくないし、広い場所も必要じゃないから、ナメクジたちを廃材でつくるのどうかな？」という意見がでてきました。「たしかに！」「ナメクジたちたくさんつくらないといけないもんね！」と意見がまとまり、N.Y ちゃん、R.S ちゃん、M くん、R.N ちゃんなども参加して、ナメクジづくりが始まりました。

みてみて！目と口がついたよ！！

どうやって箱と箱つなげていっているの？

ボンドでとめたりもしてるし、小さかったらテープでも貼れるからそうしてるよ！

日々増えていくナメクジたち！どうする？

ナメクジを作り始めて数日後、「このナメクジたちはどうなるの？」という疑問が子どもたちのなかに芽生えていました。「どうしよっか！」と問いかけてみると、「ももちゃんごっこする！」や「ナメクジャーと一緒にじめっと森に住むんじゃない？」など、様々な意見があがりました。子どもたちがそれぞれ、意見をいうので、「みんなの気持ちはわかったけど、それぞれ違うことを言ってるから結局どうするか決まらないね。どうする？」と聞くと、「子ども会議！」とみんなが口をそろえて言いました。。（これまで遊びを決めたりするときには、子どもたち自身で話し合ってほしいという思いから、『子ども会議』と名前をつけ、話し合いの場を持つようにしていたことがここで生きてきました。）

子ども会議で話し合ってみた！

ナメクジづくりやナメクジャーを作っていた子どもたちが集まって、子ども会議が始まりました。議題は、

「ナメクジたちをどうするのか」。N.Y ちゃんが「ナメクジいっぱいいるからさ、ももちゃんのお庭をたべさせたいよね」と言うと、H ちゃんが「うちたちお庭もつくってるよね！」といままで作っていたみんなに問いかけました。すると、Y ちゃんが「うん！でもこんなにいっぱいのナメクジは食べれないよ、１個しかないから」と言いました。さらに、「せっかくさ、ナメクジャーとか作ってるからお母さんにも見せたいけどな～」という意見もでてきました。

それまでの意見をじっとを聞いていた R ちゃんが「そしたらお庭もう少しつくる？」と提案してくれました。

そこで話が小康状態になったので、保育者が「ホールにももちゃんの世界をつくって、お母さんたちに見てもらうとかはできると思うよ！」と提案してみると、「それがいい！」「やりたい！」と満場一致で『ももちゃん』の世界づくりが決まりました。

『ももちゃん』の世界をつくりたい！という思いが湧き出てきたけど…

『ももちゃん』の世界をつくりたい！という思いが湧き出てきたことで、自由遊びの時間にナメクジを作ったり、ナメクジャーをつくったり、お庭を作ったり、果物を折り紙で折ったりと『ももちゃん』の世界づくりをそれぞれが進めていました。しかし、なかなか通常の活動や日常生活もあり、ホールを使ってみんなで活動をするという時間が確保できずにいました。そのような中で、子どもたちの中でも遊びが盛り下がっていっているようにも感じていました。

そんなときにホールを 3 日借りれ、『ももちゃん』ができる見通しが立ちました。嬉しくて、子どもたちに「ホール！使えるって！『ももちゃん』できるよ！」と伝えに行くと、「本当に？！」「やったー！！」「ドキドキしちゃう！」などと大喜び。子どもたちのなかで、『ももちゃん』への思いの火は消えておらず、また盛り上がりをみせたことが本当に嬉しかったです。

湧き出た思いがクラスに広がって！

「やったー！」と盛り上がっていると、M くんが「♪ナメナメ　ナメナメ　夢のよう～！」とナメクジャーが歌う歌を歌いはじめました。すると、その歌がクラス中に広がり、「♪ナメナメ　ナメナメ　夢のよう～！」と大合唱になりました。

いままで「ももちゃん」に無関心だった R くんや M ちゃんなども、「ももちゃんの世界つくるの？」と興味を持っている様子でした。

ホールに『ももちゃん』の世界をつくるにあたって、話し合わないといけないことがたくさんありました。どんな風につくるのか、だれがなにをつくるのか、など「子ども会議」で話し合うことを提案すると、「いいね！」「そうしよう！」と子ども会議の開催が決まりました。

子ども会議で話し合ってみた2

今度の子ども会議はクラス全員ですることになりました。どんな風につくっていくのかイメージが持てない子どもたちに「お母さんたちに見てもらうなら、道をつくって入口と出口を作ってみたらどうかな？」とホワイトボードに絵を描き、提案しみました。すると、「いいね！そうしよう！」「道はテープで描いていったらいいんじゃない？」「ここは歩くところってわかる方がいいよね」「そうだね！」と話が進んでいきまとまりました。

子どもたちの意見をまとめると、「道をまず作って、道の中と外にお庭を置いてナメクジたちを置こう」ということになりました。さらに、①道を作る人、②ナメクジャーを作る人、③ナメクジをつくる人、④お庭をつくる人の４つのチームに分かれることになりました。だれがどれをするのかも、話し合いを行い、自分たちで決めました。

実際にホールに移動し、『ももちゃん』の世界づくり開始！

事前にホールには画用紙や割り箸、ストロー、廃材、作業台などを用意し、子どもたちが自由に創作することができる環境を保育者が構成しました。夏休みのためボランティアにきてくれていた近くの高校のお兄さん、お姉さんたちも参加してくれ、難しいことやわからないことなどは、お兄さんお姉さんの力も借りながら、それぞれ自分のチームの作業が始まっていきました。

道チーム！

道チームでは、入口と出口を決めそこからビニールテープで道の線をひきました。さらにそのテープに合わせて草を切り、草を貼っていくことになったのですが、上手く立たずに倒れてしまうことが問題として浮上しました。透明ブロックを後ろに積み、倒れないようにしてみましたが、透明ブロックも倒れやすくあまり上手くいきませんでした。

保育者も上手く立たないのをどうしたらいいのかと、1 日目を終え、子どもたちがいなくなってから段ボールで支えをつくってみたりと考えてみたのですがあまり上手くいかず…。悩んだ末に、サンルームに置いている紺と白のブロックを置くことで上手く立つということにたどり着いていました。

2 日目、道チームに草が透明ブロックでは上手く立たないので、どうしたらいいか問いかけてみました。「透明ブロックだとすぐに崩れちゃったりして上手く立たないよね。どうしようかな？」と聞いてみると、「そうなんだよね」「風とかでも崩れちゃうからどうしようね」と子どもたち同士で話し合いが始まりました。すると、「透明ブロックより大きいものを置くのはどう？」という意見がでてきたので、「サンルームの紺と白のブロックなら透明ブロックより大きいかな？」と提案してみると、「それがいい！」「やってみよう！」と話がまとまりました。

やってみたけど…透明ブロックだとすぐに崩れたり草が倒れたりしちゃうな…

草は立てられたからいっぱい草作ろう！

サンルームの白と紺のブロックならちゃんと立つ！上手に立ってられるよ！

ナメクジャーチーム！

ナメクジャーは事前につくっていたのでほぼ完成していたのですが、ナメクジャーのお腹がまっすぐになっていることが気になる子どもたち。「なんかさ、ここが寂しいよね」「ナメクジャーって丸いんだよ、みて！」と絵本を片手に見せてくれながら「どうしたらいいかな？」と相談しにきました。そこで、「丸くしたいのか。どうしようね。お腹に何かいれる？」と聞いてみると、、「ふわふわしたものいれたら丸くなりそうなんだけど～」と悩み始めました。「じゃあ、新聞紙を丸めていれるのは？」と言ってみると、「あ～！それいいね！」と新聞紙をお腹に入れることになりました。さらに、「ナメクジャーって模様なかったけ？」と聞いてみると「ある！忘れてた！」とクーピーで、「ナメクジャー！」「ここは濃い茶色！」と楽しそうに色をつけていました。

お庭チーム＆ナメクジチーム！

お庭は最初、H ちゃんと K くんがつくっていました。そこに M ちゃんや R.N ちゃんなどが加わったため、H ちゃんと K くんが先生になり、「端から端まで画用紙が貼れるように、こうやるんだよ」とみんなにやり方を説明する姿などもありました。コツコツと同じ作業の繰り返しをみんなで相談しながら、何個もお庭をつくっていました。「もう 5 個目じゃない？！」「ももちゃんのお庭どんどん大きくなって美味しいそうだね！」「食べたいね！」と子どもたちも世界に入りながら楽しそうにお庭づくりをしていました。

ナメクジチームは、創作が苦手だったり、普段積極的に工作遊びなどをしない子なども近くの高校のお兄さんお姉さんの手を借りながら、一生懸命につくっていました。「このボタンをつけるためにはどうしたらいいのかな？」「体と顔の色を分けたいな」など思い思いのナメクジができあがっていきました。

一日目の終わりに話し合いをしてみた！

一日目の終わりにあと何が足りないかの話し合いをしました。そこで、①道の草、②お庭、③果物が足りない！という意見がでてきました。その話を聞いていた園長先生から「『ももちゃん』の世界なのにももちゃんはいなくていいの？」というお話がでました。すると、「あー！たしかに！ももちゃんも作りたい！」と④ももちゃんも追加されました。

さらに、「お庭だから花紙とかあってもいいかもね」という園長先生からの提案ももらい、⑤花紙も追加され、明日することが明確になりました。保育者はホワイトボードに明日すること、ToDo リストを書き、見える化することで子どもたちが分かりやすいようにしていました。

2 日目！

2 日目は、昨日に行った役割分担ごとでチーム分けをし、それぞれの作業が始まりました。作ったりすることが苦手な子など、もう少し飽きだしてしまう子がでてくるかと想定していましたが、2 時間、だれも飽きずに自分の役割を行う姿が印象的でした。

ももちゃんづくりでは、どれくらいのサイズでつくるのかから話し合いが始まりました。「ナメクジャーよりも小さくないといけないし、でもナメクジよりは大きくないといけないよね」「たしかに、じゃあ段ボールだけど、そこに大きい紙貼ったらいいんじゃない？」と話が進み、模造紙でつくることが決まりました。さっそく、模造紙を取りに行くと色をみて、「ピンク！」と真っ先にピンクを取ろうとしました。そこで、M.K ちゃんが「え、ももちゃんは黄色だよ」と声をかけました。「なんで？ももだからピンクじゃん！」と言い合いになっていたので、「絵本見ておいでよ！」と提案してみると、絵本を見てきた子どもたちが「外はピンクだけど中は薄い黄色だった！」と帰って来ました。私も、ももちゃんと言えばピンクというイメージが強かったので、細かいところまでしっかり見ている子どもたちの様子に感動しました。

模造紙にももちゃんを描き、それを切って、段ボールに貼るとその段ボールは「ももちゃんのまわりだからピンクの画用紙だね！」「ね！そうだよね！」と得意げな様子でした。

段ボールから飛び出た頭の部分が「倒れちゃうな…」と困っていたところで、画用紙を三角にして後ろに貼るといいよと園長先生に教えてもらい頭もきれいに立ちました。「みてみて！立った！」「頭もちゃんと立ったよ！」と見せてくれ、手足や葉っぱもつけて、大満足のももちゃんができあがりました。

ももちゃんの頭を立たせるのには三角を作ったらいいんだって！園長先生が教えてくれた！

かんせーい！！
ちゃんと頭も立ったよ！

それぞれが作ったものを並べてみる！

それぞれのチームでの作業が徐々に終わって来ていたので、１日目から作っていたものを実際に並べてみることになりました。作っていたお庭のほかにも講義台も積んでみることで、お庭を表現したり、お庭の果物をナメクジたちが食べているように置いたりと、置き方や並べ方にも工夫がありました。ナメクジャーの置く場所は最後がいいということになり、最後に置き、そのナメクジャーを倒すために、ももちゃんはナメクジャーと道を挟んで反対側に設置しました。さらに、ももちゃんの話を知らないお母さんたちのために、絵本の内容を印刷したものをボードに貼り、これがなにかの説明文も書いて入口に置きました。入口と出口も書き、順路が分かるようになど細かいところまで世界を作り込んでいました。

ナメクジはももちゃんのお庭を食べるようにお花の方を向いて置いてるんだよ！

口の所にお花がくるように割り箸の長さも調節してるんだ！

完成！！

ついに、２カ月にもおよぶ『ももちゃん』の世界作りは完成しました。子どもたちは、「やったー！！！」と大喜び。「はやく見せたいね！」と口々に言ったり、「♪ナメナメナメナメ夢のよう～」と歌いだしたりと大興奮でした。きりん組さんやうさぎ組さんにも見てもらい、先生たちやお母さんたちなど色んな人に褒めてもらって本当に嬉しそうな様子でした。お母さんたちには、それぞれがこれはなにか、どんな風につくったのかを

世界観に飛び込んでみた！

ももちゃんの世界を片付ける前に、「ごっこ遊びをしたい！」という声があがっていたので、自由遊びをしました。自分の作ったナメクジを使って友達と、「ももちゃんのお庭美味しいね」、「あっちのお庭も美味しそうだよ！一緒に食べに行かない？」、「ナメクジ会議をはじめます。今日の自由遊びはなにをしたいですか。話し合ってください。」などと遊ぶ姿がありました。「ナメクジたちはナメクジャーが大好きだから、ナメクジャーに乗せてあげる！」とナメクジャーの上にナメクジたちをたくさん乗せたりしている子どもたちもいました。

自由遊びだったのでももちゃんでは遊ばず、違う遊びを始めてしまう子どもも出てくるかなと思い、ブロック遊びも用意していたのですが、誰一人として飽きずにももちゃんの世界のなかで、入りこみ遊んでいたのが非常に印象的だった。それは、ももちゃんが子どものなかで身近なものであり、そして、最初は興味のなかった子どもたちも、周りに引っ張られて、だんだんと楽しくなり、ももちゃんの世界観に飛び込むことができたからのように思います。お片付けをしたあとも「またやりたい！」「楽しかった！」「ああ～終わっちゃったの悲しい！」などと、盛り上がりをみせていました。

ももちゃんの世界に入ってみた！を振り返るその1

今回の遊びの始まりは、リズムであるように思います。最初から絵本の内容が子どもたちにハマったというわけではなく、♪ナメナメナメナメ　怒ったぞ！♪ナメナメナメナメ　許さない！というリズムが子どもたちにハマり広がっていきました。リズムについての詳細は今井むつみ著『言語の本質』に記載がありますので、

気になる方は読んでみても面白いと思います。このリズムに出会ったことによって『ももちゃん』がだんだんと好きになっていったのです。

リズムに出会い、ももちゃんが好きになっていったときに、湧き出てきた「ナメクジャーをつくりたい！」という思い。一人の子どもの中から湧き出た思いが、対話によって子どもたち同士で共有され、「ももちゃんの世界をつくりたい！」という思いに繋がっていきました。さらに、その思いがクラスに徐々に広がり、「やりたい！」の渦がクラス全体に広がっていきました。

「できないな、どうしたらいいかな？」と躓くこともありましたが、友達や保育者の手助けも借りながら、自分たちで考え解決していました。２か月間ずっと盛り上がり続けたわけではなく、盛り上がりと盛り下がりを繰り返しながら、形にしていくことができました。

ももちゃんの世界に入ってみた！を振り返るその2

『ももちゃん』は絵本なので平面的で、お話とお話を繋いでいる部分も曖昧なところが多いです。例えば、どのようにヤクミレンジャーがナメクジたちを追い払ったのか、ももちゃんのお庭とじめっと森はどれくらいの距離なのか、などは絵本には描かれておらず、それぞれが想像することによって『ももちゃん』は完成しています。平面的だった『ももちゃん』の世界ですが、リズムに出会ったことによって、奥行きが生じ、ナメクジャーを作ったことで、さらに奥行きは深くなりました。そして、それらの奥行きに出会ったことで、「ももちゃんの世界をつくりたい！お母さんたちにもみせたい！」という「やりたい！」の火がついていきました。

絵本に出会う→絵本の奥行きに出会う→様々な感情、思いが生まれる→思いを形にしたいという気持ちが芽生える→思いを形にするために対話する→思いが形になる。というこんなにも楽しかった『ももちゃん』の世界づくりに保育者も参加させてもらい、子どもたちが思いを形にする手助けができたこと、保育者として幸せなことだったと振り返ります。

子どもたち同士で話し合い、相談し、試行錯誤しながらクラスで一つのものを創り上げていくという今回の経験が、これから先の子どもたちの人生においても生きていってくれればいいなと思います。